

子どもの医療費助成 中卒まで拡充

全小中学校の耐震化、全校にエアコン設置

保育所、育成学級の充実へ

子どもの医療費助成

「中学校卒業まで拡充」

市民の強い要望である「子どもの医療費無料化の拡充」は、これまでから直接請求や請願など、その実現を求める粘り強い運動が繰り広げられてきました。党議員団も市民と共同して、無料化の拡充を求める条例提案や一般質問などを行ってきました。

この4年間、「通院医療費無料化の拡充を求める請願」は、同趣旨の内容を含む請願を合わせると4度提出されました。

そのたびに民主・公明・自民などが「財政が厳しい」などと反対し、不採択としてきました。

しかし、2014年9月からは小学校卒業までの通院医療費の無料化が実現しました。

中学校卒業まで無料化へ

今年9月から、入院助成が中学校まで拡大され（自己負担200円）、通院では、月3000円を超える分を償還払いで、補助することに なります。

さらに完全無償化へ向けて、共同した運動を進めていきます。

通院医療費助成の拡充

	0歳～3歳	4歳～5歳	小1～小3	小4～小6	中1～中3
～2012.8	200円負担	3000円超償還	(助成なし)	(助成なし)	(助成なし)
2012.9～	200円負担		3000円超償還		(助成なし)
2013.9～	200円負担			3000円超償還	(助成なし)
2014.9～		200円負担			(助成なし)
2015.9～		200円負担			3000円超償還 (金額は月額)

保育所待機児童をなくしてという市民の願いは切実です。しかし市は、公立保育所を廃園し、待機児童の解消に背を向け、公立保育所の民営化を強行してきました。

保護者や保育関係者などの運動と党議員団の議会での追及で、民間

保育所の新設などで定数が増加しましたが、待機児童の解消には対応しきれっていません。

市長は、2013年と2014年の

保育所が足りない

待機児童解消へ奮闘

4月には、「国の基準では待機児童はゼロになった」といいました。しかし「国基準」では、親が求職中等の待機児童を数に入れず、実際には、2013年度末には264人、2014年4月では81人が待機児童となっています。

党議員団は、

待機児童ゼロなど保育の充実をめざし「子ども子育て支援新制度」による保育所制度の改善を許さない運動をすすめていきます。

全小中学校で耐震改修、

エアコン設置完了へ

市教委は、西小倉地域の3小学校1中学校の統廃合を行うとし、小・中学校の耐震化もエアコン設置も放置してきました。そのため、西小倉地域以外の小・中学校で耐震化もエアコン設置も予算化され工事が完了しようとしているのに、西小倉地域の小・中学校だけ実施の計画は全くたてられませんでした。

党議員団は、保護者や教育関係者と共同し、議会で繰りかえし追及してきましたが、東日本大震災の影響もあり、市は方針を転換し、西小倉地域の小・中学校の耐震化工事をすすめる、2013年に完了しました。

また、エアコン設置を求める市民

市の学童保育制度である育成学級には20の小学校に1763人の児童が通級しています(2014年4月1日)。利用率は25.2%で4人に1人の児童が通い、年々増加しています。

保護者の方の

育成学級対象学年拡大

小学校6年生まで

強い要望のあった入級対象学年の拡大が、2015年から6年生までになります。定員オーバー解消の願いに対して、2014年度、大久保育成学級が、2015年度には、小倉学級と

三室戸学級が建て替えられ、定員増が一定はかられます。また、多くの保護者から新年の開設を1月6日からではなく、4日からしてほしいとの要望が出されてきました。党議員も議会で取り上げ、2014年1月から、4日から開設となりました。

要望に、市教委も民主・公明・自民なども反対しましたが、市民運動と議会論戦で、2014年夏までに全小・中学校で設置されました。

宇治市議会3月定例会 質問日程

代表質問 2月26日(木)・27日(金)
日本共産党 坂本議員(26日2番目)
一般質問 3月2日(月)・3日(火)
水谷議員・木沢議員・宮本議員・渡辺議員

議員団だより2月号外

発行 2015.2.22
日本共産党宇治市会議員団
宇治市宇治琵琶33市役所内
電話:22-3141 FAX:24-7884